テーマ1　文化芸術活動や講演会など多用途に活用できる多目的スペースを備えた地域のシンボル的な施設

「御調のかお」として、町のひと・地域・芸術文化の結節点を生み出します

支所と一体感を感じる開かれたファサードとし、地域に活動と交流があふれ出す場を創出します

人をやさしく包む、おおらかな屋根

地域に愛され人の流れを生み出す施設を計画します。木やレンガ等といった地域素材でできた建築はまちのランドマークとして敷地外からの視認性を高め、伸びやかな屋根は日射や通風のコントロールを促します。

ゆるやかに空間同士が連続する地域ロビー

背景の山並みや御調支所に呼応するように屋根を構成し内外の一体感を生み出します。ホールの高さを確保しながら、圧迫感のない計画とし地域との調和も図ります。

居場所が多様に点在する地域ロビー

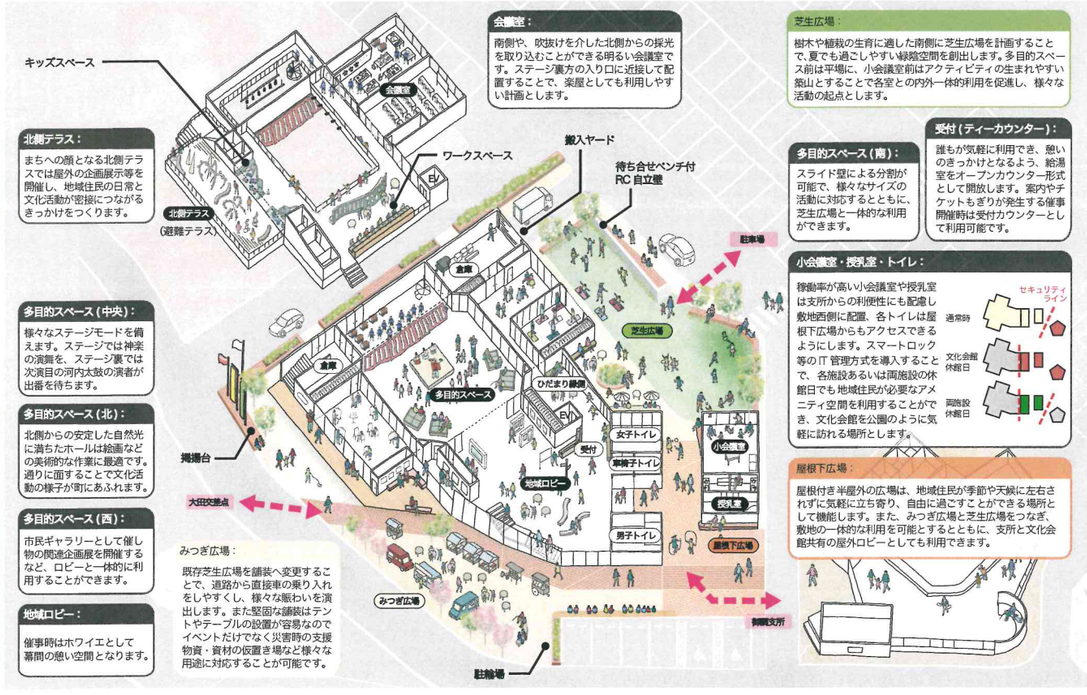
つなげて、ひらく、通り土間のホール

閉じられたホールではなく、人々を外から迎え入れ、外に開かれたミチの延長にある"通り土間"のホールをつくります。地域と連続したホールを気軽に散策し、芸術文化や人の交流にふれながら、町に対して開かれた活動の場を生み出します。

2階とつながり立体的な活用も可能な多目的ホール

回遊性のある表裏のない配置計画

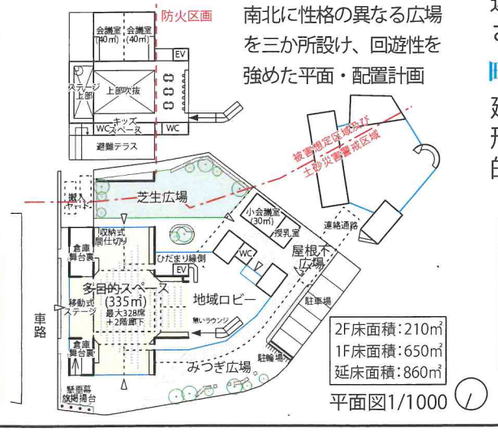
施設に訪れる人々をあたたかく迎え入れ、活動と交流の場を創出します。利用者の動線は極力単純化し、子どもや高齢者など誰にとっても分かりやすく、利便性の高い計画とします。



町とつなぎ、地域活性化に寄与します

市民や来訪者、皆の活気を迎え入れます。

南北に性格の異なる広場を三か所設け、回遊性を強めた平面・配置計画



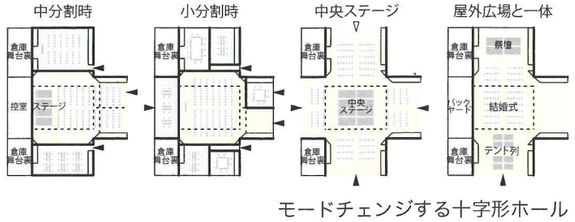
平面図1/1000

御調支所との連携や歩車分離に配慮した管理計画

施設エントランスと既存支所を近づけ、少人数で管理運営しやすい計画とします。小会議室を支所から近接させ、休館時も広場と一体的に活用できます。

町にひらき、臨機応変に利用できる多目的スペース

建物正面にホールを配置し、町に広く開きます。十字形のホールは複数分割を可能とし、南北の広場と一体的に活用することで、多様な使い方を実現します。

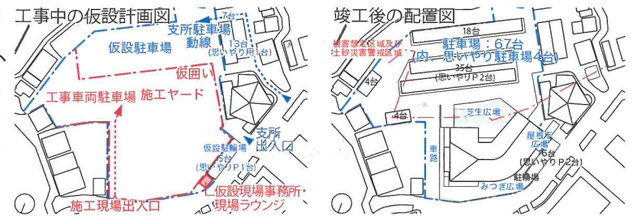


モードチェンジする十字形ホール

テーマ2　工事期間中の安全計画と利用形態

工事中は支所の安全運営に配慮しながら市民に計画を積極的に発信

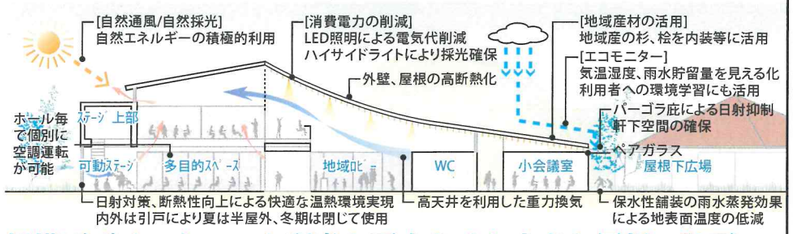
動線や安全性に配慮しつつ、現場から市民へ施設計画の情報を積極的に伝えます。



テーマ2　コスト削減の配慮について

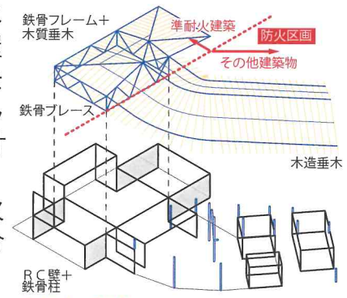
パッシブで環境負荷の少ないサスティナブルな建築を計画します

敷地の風土を丁寧に読み込み、ランニングコストを抑える環境計画を提案します。断熱性能もしっかり確保し、気候風土に適した省エネルギー対策を講じながら、ZEB ready の達成を目指します。



架構デザインとコスト配慮を両立させた大きな屋根の計画

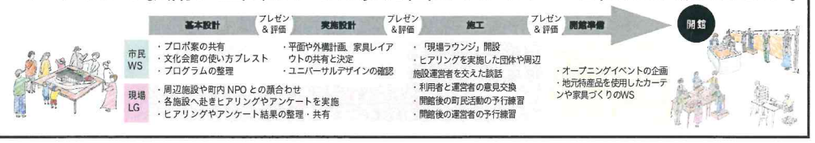
1階はRC造の壁を耐震要素とし、増水時にも安心な計画とします。2階及び屋根架構はホール外周部の鉄骨ブレースを主構造とし、木の垂木を連続的に配置します。木材は地場産の4m以下・流通寸法の直線材を用い、材料を確保します。ホール部とそれ以外を防火区画し、耐火要件を整理することでコストを抑え、合理的で温かみのある構造計画とします。



効率的な工程管理とコストに関する低減手法

- 同種施設の実績に基づき御調のイメージを高め多面的検討を遂行します。
- 作業工程を明確にし、コストチェックを繰り返し、手戻りをなくします。
- 中間期の自然エネルギーを最大限に利用した設計で、維持費を抑えます。
- 施設特性や使われ方に吟味し、維持費を抑える環境計画を実施します。
- コスト、施工性に配慮した工法を採用し維持管理しやすい計画とします。
- 適した設備機器を導入し エネルギー負荷の低減を図ります。

テーマ1　地域のシンボル的な施設をつくるプロセス

日常的な賑わいをつくりだすための対話と魅力的な施設づくり

設計段階のワークショップでの対話に加え、施工段階でも地域住民が主体的に使い方やそのアイデアを交換する場として、現場事務所を地域住民にも開かれた「現場ラウンジ」とします。スタッフが滞在しながら通常のワークショップで拾いきれない学生や小さな子どものいるママなどの隠れがちな声も継続的に集めたり、設計 / 企画者が将来の利用者にデザインや技術、企画といった多方面のリテラシーを伝える場とします。